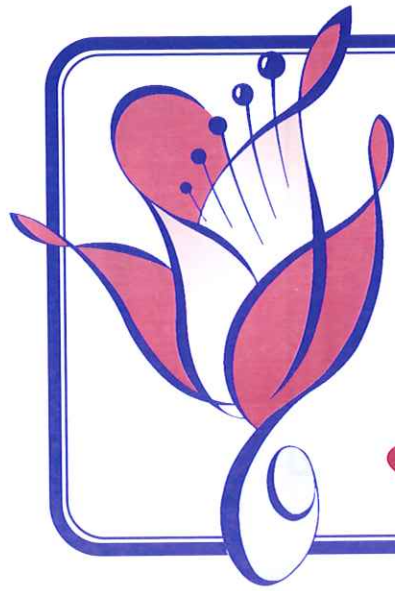


自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記 19-18)

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7-12)



# ひびきあい Hibiki Ai

聖ヨハネ学園だより

発行：聖ヨハネ学園 〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1 TEL&FAX072-687-0548

## ヨハネ学園の監事となつて



聖ヨハネ学園  
監事  
服部 喜代司

私がヨハネ学園の監事を仰せつかって早や5年が経ちました。私とヨハネ学園とのかわりは、私ども石橋聖トマス教会の担当で、年2回のミス・ブール記念ホームでの喫茶サービスの奉仕手伝いをしたことに始まります。コーヒ、ぜんざい、わらびもち、ケーキ等の提供で、ご利用者さんがそれぞれの好みで注文され、会話を楽しむ方、黙々と食することに集中されている方など様々ですが、奉仕されている皆さんが寄り添っておられる姿を見るたびに、微笑ましく思えました。高槻のあの場所に行った時、遠い昔に何度か来た懐かしさを感じました。今とは全く違う景色なのに、何故かこの地に思い

が残っているようです。それは私が高校生の頃、キャンパス地であった当地に、教会の夏キャンプに何回か訪れていた事を思い出しました。そのよな私が、こうして学園とかわりを持たせていただいていた光栄です。

当初は、ヨハネ学園の事は殆どわからず、戸惑いの中になりましたが、徐々に学園全体の内容も把握できるようになりました。しかしながら、社会福祉法人制度の改革により監事の役割が非常に重い責任を伴うことになり、このよな私でも良いものかと不安を感じた次第です。しかしこれも私に与えられた神様よりの賜物と考え、今まで以上にしっかりと見据えていきたいと思えます。今まで失礼な事も言ったことと思えますが、学園の発展を思つての発言とお許しただきたい存じます。来年には130周年という長い歴史の中で、リーラ・ブ

ール女史の精神を、先達が受け継ぎ築いてこられた学園を、これからも受け継いでいかなくはなりません。学園の理念「いのちがかがやくために」はご利用者一人ひとりの尊厳を守りそれぞれの人がその人らしく、より豊かに生活されることと、職員の皆様それぞれが心から豊かに生活され、喜びを持って働けるような施設づくりの一役を担えればと考えます。

社会福祉事業が難しくなつてきている今日、ご利用者に質の高い福祉サービスを継続的に提供できる健全かつ適正な運営体制が確保されるよう、自らが果たすべき役割の重要性を認識して、役務を全うしていきたいと思えます。

また、施設長会議に出席させていただき、各施設で皆さんがご苦労されていることに心が痛みます。

皆さんが笑顔で働けるような現場を築ける一助となればと考えます。今後ともに宜しくお願いいたします。

▼今号では、「この仕事に就いて得た事」を経験年数1〜3年目の現場スタッフに聞いてみました。

## 聖ヨハネ学園

私は幼児フロア配属になり現在4人の子どもたちを担当していますが日々子ども達と接する中で養育者として叱らなければならぬこともあり時には頭ごなしに叱ってしまったこともありました。しかし叱る子ども達を信じて伸ばすような声掛けが子ども達を伸ばしていくのだと学びました。これからも子ども達と共に成長していけたらと思います。

(野邊千夏)

\* \* \*

入職し一日一日が目まぐるしく過ぎる毎日が続いている中、その中でも頑張っている理由ができて一番の理由が子ども達の存在です。私自身今まで小学生の男の子と関わったことがなかったので、最初

は不安でした。しかし、次第に私に「外で遊ぼう」と声を掛けてもらうことが増えたことが非常に嬉しかったです。

(村上琴音)

\* \* \*

私がこの仕事で得たことは、「向き合う」ということです。今までの私は、合わないと思うと、それ以上自分から関わることをしてきませんでした。しかし、この仕事を始めて、どうして子ども達に思いが伝わらないのか、と何度も逃げ出したくなりましたが、子どもの気持ちを考え、違う方法で見守ることを通して向き合うようになりました。

(豊島歩未)



\* \* \*

中高生女子のフロアで働いています。ある日、普段あまり話し掛けてこない、大人びた子と二人で出かける機会がありました。そのとき普段と違ってかわって、饒舌に話をしてくれました。

内容の大半が、自分が頑張っていることでした。聞いてほしいという思いに気付かなかったことを反省し、その日からその子との個別の時間もつようにしています。

(垣内里咲子)

\* \* \*

新任職員として働かせてもらって、早いもので半年が過ぎようとしています。毎日同じ日がなく、子ども達と関わる中で様々な経験をさせてもらいました。この仕事で得たことは、「考える」ことです。今、目の前にいる子どもが何を求めているのか、どうしてほしいのかを、時には直接聞き取りながら「考える」ようになりました。

(原田翔太)

## 下田部保育園

保育士として働き始めて2年目になります。

私は、自分の意見や思いを言葉にすることや伝えることが苦手で、思いを伝えられずに溜め込んだり、抱え込んだり我慢することが多くあります。

しかし、保育では様々な場面での他の保育士と意見を出し合い話し合うことで、同じ方向を向いて保育しなければなりません。1年目の時は分からないことが多くあり、初めの方は意見することも少なかったのですが、他の先輩保育士が私の意見を受け入れてくれることもあり少しずつ自分の意見や思いを言葉にするようになりました。

今年はクラスが変わり自分の意見や思いを伝えなければならぬことが増え、様々な場面で話し合いながら保育しています。どんなことでも言葉にするのが難しく抱え込

んだり溜め込んでいた私が、他の保育者に相談したり少しでも自分の意見を言うことができるのは受け入れてくれる環境のおかげだと感じています。

遊びや生活する中で、様々なことを経験し学び成長する子どもにとって、生活する中で「お茶がこぼれた」「衣服が汚れた」などの様々な困ったことや出来ないことがあり、遊びの中では「玩具を貸してほしい」「一緒に遊びたい」など子ども一人ひとりの思いがあります。初めは泣くことによってその思いを保育者や友だちに伝えますが、徐々に言葉で伝えられるようになります。その中でも、状況によっては言葉で伝えられずに他児に手が出てしまうことや困ったときに保育者に伝えられない場面も多々あります。

や思いを言葉にできるようなったということと同じであり、保育者が子どもの気持ちに寄り添い受け入れることや、失敗を失敗だと思わせないような言葉がけをすることが大切であると感じられるようになりました。

今後の保育でも、子どもたちが安心して自分の思いを言葉にして伝えることができるような環境作りを心掛けていきたいです。(川上美乃莉)



私がこの職に就いて得たものの中で一番大きかったのは、「行動や表情の『理由』を考えられるようになったことです。私が担当しているユニットに、他のご利用者の行動に逐一イライラされる方がいました。隣で他のご利用者がおしほりを巻いていても、ご自身のやり方と違っていたり、少しいびつになっていたりすれば、きつい口調で注意するなどし

ていました。食事中にうまく口にスプーンを運ぶことができず、こぼしてしまう方がいても同様でした。そのご利用者の言動について、私の第一印象は「細かいなあ」という印象でした。どちらかというとその言動についてはマイナスイメージだったので。

しかし、ユニット会議(ご利用者のことについて話す機会)があった時、先輩職員の口から、「昔の職業柄、他者の言動が細かく気になってしまわれるのだから…」という言葉が聞かれました。そのご利用者は、昔料亭に長く住み込みで働いておられ、サービスやおもてなし、マナーなどについては厳しい目を持つておられたようです。その過去の話を聞いた瞬間にマイナスに見えていた言動が、その方の過去の誇りの現れでもあると捉えられるようになり、見方が変わりました。そうすると、対応を考える視点も変わりました。

へ優しい言葉を使ってくれかな?ということを考えていたのが、この気づきがあったからは、そもそも他のご利用者を気にせずにご自身のルールで過ごしていただけるような環境づくりをしようと考えようになりました。

言葉や表情、行動の裏には、どんな心理状態や過去の経験があるのか、そういった「背景」「裏にあるもの」の奥行きをもっと捉えていけるようになりたいと思いました。そのためには、ご家族との関係、病気のことも理解に努めることが必要です。そのことで、より『その人らしさ』を輝かせる支援ができると思います。この学びは、仕事中心で、利用者に対してだけではなく、職員との関係づくりや、



家族や友達とのかかわりの中  
でも大いに生かしていきたい  
と思いました。(森田華代)

## ゆう・あい センター

福祉の世界とは全く無縁だ  
った私は、自身の周りに起き  
た出来事がきっかけとなり、  
43歳で福祉の勉強を始め、48  
歳の時に介護職に就きました。  
身体障害者療護施設に始まり、  
その後、認知症グループホー  
ム、知的障がい者グループホ  
ーム、夜間訪問介護等で介護  
職として63歳まで勤務しまし  
た。

退職後の生活の中で、すこ  
ぶる身体状況が安定していた  
ので、この状況でも、私にま  
だ何かできることはないか？  
お役に立てることはないか？  
と思い、就活を始めた時に、  
目に飛び込んできたのが、ゆ  
う・あいセンターのデイ教室  
でのお仕事でした。「この仕  
事をやりたい!!」  
今まで経験のない分野でし

たが、なぜか心が動きました。  
おかげさまで働く機会をいた  
だき、早1年と5か月が経ち  
ました。私の仕事は、在宅あ  
るいは入所されているご利用  
者に対し、それぞれのニーズ  
を反映させたレクリエーショ  
ンを楽しんでいただき、安全  
に安心して過ごしていただく  
日中活動の場としての、お手  
伝いをさせていただく事です。  
仕事の中では、お一人おひ  
とりのニーズを大切に、ご利用  
者が持つておられる身体機  
能を最大限に活かす支援を心  
掛け、また、少しでも生活の  
質の向上に繋がる様に、たく  
さん笑顔がこぼれます様に  
という思いで取り組んでいます。  
私は、ご利用者が、朝、元気  
に通室される顔を見るのがと  
ても楽しみです。

そして、ご利用者が持つて  
いる心地よい空気感に癒され、  
彼らのやる気を共有できた時  
や、互いの想いが通じ合った  
瞬間に喜びをいただき、心が  
折れそうな時には、ご利用者  
の真っ直ぐな思いと、その存  
在から放たれるエネルギーで、

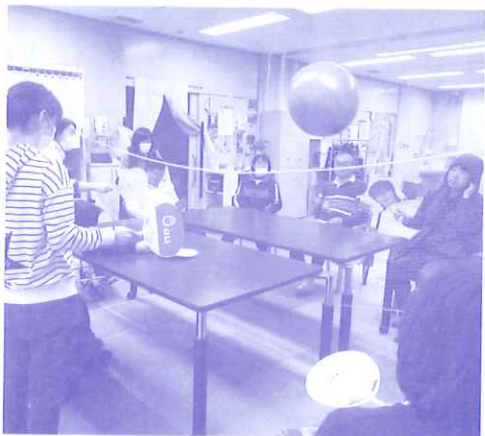
いつも頑張る力をいただいで  
います。

介護は一方通行ではなく、互  
いを尊重し、思い合いながら  
築いていくもの。対等な関係  
であり、ある意味、持ちつ持  
たれつの関係でもあると思っ  
ています。

これからも先輩スタッフに  
支えていただき、ご利用者の  
想いをくみ取り、寄り添い、  
支援できるように気力・体力  
が続く間は頑張っていきたい  
と思います。

最後に、ご利用者の皆様に  
「ご利用者は私の頑張る力、  
ありがとうございます」と感  
謝の気持ちを伝えたいです。

(米代慶子)



## うの花療育園

私が初めて担任をしたクラ  
スで、自室に入ろうと誘うと  
泣いて拒否するお子さんがい  
ました。お子さんにどんな支  
援が必要か考え、「無理に自  
室に誘わず、お子さんが過ご  
しやすい環境で、園のどこか  
が安心して過ごすことができ  
る場所となれば良いと思つて  
関わっていきましょう」と思っ  
ようになりました。一年間、お子  
さんは自室に入ることなく、  
他クラスで過ごしました。二  
年目、友達との関わりが増え、  
自室と一緒に活動することが  
でき、翌年、幼稚園に就園さ  
れました。10月に運動会を観  
に行く機会があり、他の園児  
と一緒に年長の見せ場である  
「ソーラン節」を踊る姿を見  
て、うの花で過ごした二年間  
で、たくさんのことを経験し、  
それが本児にとって力になつ  
たことを感じました。保育士  
としては「こんな経験をして  
ほしい」という願いはありま

すが、お子さんの気持ちを第一に考え、無理に何かをさせようと思わず、お子さんの力を信じて見守ることの大切さを知りました。(月岡泉美)

\* \* \*

私がこの仕事で得たことは、スモールステップで考えていくことです。朝の用意では、子ども達が自分でタオルをかけたリ、水筒、連絡帳、給食袋、歯磨き袋をカゴに入れていますが、最初から5つ全てを取り組んでもらおうとする。理由としては、遊びたい思いが強いことや、用意する数が多くて気持ちが向き難いこと等が考えられます。取り組み難そうであれば、まずは水筒を1つ入れて「できた」



経験を積み、少しずつ取り組める量を増やしています。うの花療育園で働き始めて、毎日子ども達と関わり、課題を見ていく中で、「ここまでならできる」「これ以上は難しい」と経験の中で少しずつ考え、目標を立てられるようになってきました。今でも私が考えたスモールステップが難しくかったり、反対に簡単に取り組みめたりすることもありません。子ども達が少し頑張った「できた」という感覚を多く経験できるようにこれからもスモールステップで目標に取り組んでいきたいと思っています。

(濱谷洋平)

## 地域生活支援 センター光

私がこの仕事で得たことは、職員としての責任です。私は今年度から中途採用として光で働かせていただいています。以前も福祉施設で勤務しており、その時も職員としての責任について考える機会はたく

さんありました。

しかし、光のご利用者は光で楽しく暮らしておられ、ご利用者は職員へ介助面だけでなく日々の楽しみなどを期待しているように私には思えませんでした。職員が少しでも手を抜いてしまえば、ご利用者の生活はつまらなくなってしまいます。失敗してしまいご利用者に謝らなければならぬ時や、不快に思わせてしまった時もあります。それ以上にご利用者が楽しいと思っていただける時間を作っていきたいです。

ご利用者が今日一日、少しでも楽しかったと思える生活を作れるように今後も責任を持って日々勤務していきたいと思えます。(小西宏平)

\* \* \*

私は光で働き、二つの事を得ました。

一つ目は介護の支援において、技術的な部分よりもコミュニケーションが大切だと感じています。どれだけオムツのあて方が上手であっても、それが声掛けなしの機械的な動

作であるならば、非常に怖いと思います。私はご利用者の立場を常に考えながら支援を行っていきます。ちょっとした表情や声のトーンなど、少しの変化によってご利用者は敏感に感じられるので、気を付けるように心掛けています。

二つ目は、一生懸命ご利用者に接することで信頼関係が生まれるということです。入職してすぐの頃には、話しかけても反応がない方がいました。反応がないからといって関わりを諦めることなく、挨拶など意識して話しかけるように心掛けました。するとある日から反応が返ってくるようになりました。その事から積極的に関わることによって、ご利用者が心を開いて下さるのだと学びました。

(太田ひかる)

\* \* \*

入職して早半年が経ちました。この仕事に就かせていただいていたこと(学んだこと)は、「信頼関係の大切さ」です。

大学時代は心理学科に所属

し、カウンセリングの場面ではクライエントとの信頼関係が大切だと教わったのですが、福祉の現場においてもその事が意識されるとは思っていませんでした。生活に直結する支援をさせていただいているため、ご利用者にとって職員が信頼できるかどうかはとても重要な事だと思います。信頼関係は目に見えるものではないですし、構築する事は中々難しいですが、日々の支援を行う中での態度やコミュニケーションの取り方から徐々に信頼関係が構築されていくように思います。今後も得たことを大切に、日々の支援に取り組んで参ります。

(辻佳奈子)

## 聖ヨハネ 子どもセンター

第2めばえ教室に勤務するようになってから半年が経ちました。言語聴覚士として仕事を始めてからも療育施設での勤務も10年以上の経験には

なりますが、親子教室での勤務経験はなく、何もかもが初めてのことです。「気がついたらあつという間に半年も経っていた」という印象です。

改めてこの半年間を振り返ってみると、毎日が目まぐるしく過ぎていく感覚は今もあまり変わらないように感じます。それでもお子さんや保護者の方々の顔と名前も覚え、どのお子さんかどんな遊びが好きでどんなことが苦手かということも、毎日の療育の流れも少しずつわかるようになって、第2めばえ教室という環境にも慣れ、お子さんや保護者の方々の関わりを楽しめる余裕が少しずつ持てるようになってきたと感じています。

ち解けることもできました。どのような職種でも同じ職場で働く人同士のコミュニケーションは大切だと思います。特に医療・福祉の現場で働く言語聴覚士は、他職種との連携が必要不可欠です。

学生時代、実習先のスーパーバイザーが「コミュニケーションを扱う言語聴覚士が職員間のコミュニケーションも図れないでどうするの？」とおっしゃっていました。自分の気持ちを上手く表すことが苦手なお子さんに、表情や行動からその気持ちを汲み取り、代弁し、そのお子さんの可能な表現方法を見聞きさせていくことが言語聴覚士の重要な

役割だと考えています。

お子さんの笑顔、保護者の方々の笑顔をより見られればと思います。より良い療育を考えていくために、これからも精進していきたいと思えます。そのためには、職員間の意見交換も大事になります。バイザーのことばを胸に、私が暖かく見守ってもらったように、職員間のコミュニケーションも大切にしていきたいと思えます。

(太田照代)



## 理事長の日々

理事長 野知卓司

今年も11月となり秋たけなわの季節です。空気はひんやりと澄み、空は天高く青く、街路樹は赤や黄色に輝きと言いたいところですが、心なしか木々の葉っぱが少なく、褐

色にくすんで見えます。これは9月4日に来襲した台風21号のなせる業に違いありません。

今年には自然災害多発国に住んでいることを実感させられた年でした。6月18日朝に高槻市南部を震源とするマグニチュード6.1、震度6弱の大阪北部地震に見舞われました。

多くの家屋が倒壊し、コンクリート塀の下敷きになった小学生の女の子が亡くなるなどの犠牲者が出ました。幸い当法人各施設では大きな被害はありませんでしたが、交通機関の混乱による職員の勤務への影響や電気・ガス・水道の遮断による業務の混乱などを体験しました。6月末から7月初めにかけての西日本豪雨、続いて8月にかけて幾つかの台風が襲来し各地で大きな被害が出ました。そして9月4日お昼の台風21号襲来です。四国から神戸へと上陸して近畿地方を横断し、最大瞬間風速58m超と猛烈な風で雨戸を締め切った自宅にいても、家が倒壊するのではとこれまでにない恐怖を感じました。この台風でも各施設に甚大な被害はありませんでしたが、樹木の倒木、アンテナの倒壊、窓ガラスの破損、屋根や屋上設備の一部破損等がありましたし、子どもたちやご利用者は恐怖と危険を感じたことでしょう。この台風の爪痕は2カ月経った今でも街中に残っ

ており、根こそぎ倒れた大木が放置されていたり、ブルーシートをかぶった家が数多く見られます。更にその2日後9月6日深夜には北海道地震が発生しました。テレビの映像では大規模な山崩れがいたる所で見られて、地震のすさまじさを示していました。ここでも多くの犠牲者と被害が報道されました。

今年2月9日に政府の地震調査委員会は南海トラフによるマグニチュード8〜9の大地震が30年以内に発生する確率が、従来の70%程度から70〜80%に高まったと発表しましたが、それより前の昨年10月から社会福祉法人としての責任として、災害発生時の事業継続計画の策定を急がねばならないことから、安全衛生委員会でのテーマの一つとして取り上げてきました。元高槻市消防局幹部の市社会福祉事業団奥田常務理事による安全衛生委員会での「福祉施設の防火管理」講演や2016年の熊本地震で被災された社会福祉法人リデル・ライトホ

ームの吉井施設長による「2018年度法人特別セミナー」での講演をタイミングよく実施できました。これまでの貴重な体験をもとにして、熱の冷めないうちに検証を行い、法人としての自然災害対策と事業継続計画を完成させようと作業にかかっています。

10月25日〜27日に恒例の聖社連総会と研修会が千葉県匝瑳市の社会福祉法人九十九里ホームで開催され、米満事務局長と参加しました。参加者は全国から50人で近畿からは博愛社、東光学園、三光塾も参加されました。この法人は1935年に結核保養所として設立され、現在は病院・特養・老健・障がい者支援を総合的に展開している従業員850人の大規模法人です。

「神を信じ人を愛する心」を運営の基本とし、行政や地域からの信頼も厚く、新たに「こども園」と「特養」を建設して福祉の街づくりに貢献しています。

同じ聖公会系の福祉法人として頼もしい存在です。



講演会風景

10月27日には聖ヨハネ学園公開講座が催されました。2014年への花療育園10周年記念行事として開始し今回が6回目となります。高槻市子育て総合支援センター（カングルーの森）2階研修室をお借りして「子どもの強みが未来へのヒント（発達支援の現場から）」がテーマで、うの花療育園と子どもセンターの二人の主任が講師をつとめました。参加者は一般市民27人、法人関係者22人で、熱心に聴かれて質問も多く予定時間を大幅に超過した後も個々での対応がなされていました。広報委員会や担当する職員の努力と熱意によりこの催しが定着してきたとうれしく思います。

更なる飛躍を期待します。

◎チャプレン室からのたより

# たくさん入れた。どうして?

チャプレン 司祭 ペテロ竹林 徑一

イエス様は心に残る話しを、いろいろされていきますが、マルコ12章とルカ21章にある「やもめの献金」も、その代表です。

「イエスは目を上げて、金持ちたちが、さい銭箱に献金を投げ入れるのを見ていた。その時一人のその日暮らしの やもめ(未亡人)がレプトン銅貨2枚(約百円)を投げ入れるのを見た。イエスは言った。『はつきり言っておくが、この貧しいやもめは、誰よりもたくさん入れた。他の皆は、あり余る中から献金として投げ入れているが、この婦人は、足りない中から生活費のすべてを入れたのだ。』(ルカ福音書21:1-4) (本

田哲郎神父訳)

この寡婦は、貧乏生活に疲れ果て、やぶれかぶれになって「やけを起こした」のでしょうか? それとも一瞬の「ええかっこ」をしたかったのでしょうか?

か? どちらにせよ、非常識で無茶・無意味なふるまいとしか思えません。しかし、イエスの目には、別の捉え方があったようです。

イエスは、「貧しい人々は、幸いである。神の国は、あなたがたのものである。(ルカ6:20)」という不思議というか、エツと思うような言葉も残っています。自分も貧しい大工の息子で、苦勞して育ったから、こんなやせ我慢を言っている、のでもなさそうです。

生きるのに苦しくなるほど貧しくなると、たいていの人は神も仏もあるものかと捨て鉢に陥りがちですが、このやもめはこの世を超えたいのちがあること、その命を与えてくださる神への信頼に気付いていました。むしろ、誰か人間に頼って生きようとするよりも、神への信頼を証しするために、なげなしの

小金を献げようとしたのです。イエスは、彼女のその心を見抜かれたので感動され、「彼女は誰よりもたくさん入れた。神様の心とところに!」と言われ、幸いだと祝福されたのです。本田神父は、「貧しい人たちは、神からの力がある。神の国はあなたたちのものだ。」と訳しています。

またイエスは、もう一度やろうにも捧げるものが無いやもめの献金に、御自分の一生の終わりを重ねて見ていたようです。十字架の上に神様へのささげものとして自分の命を捧げる覚悟と共通するものを、やもめの心の内に見ておられたのではないかと私は想像しています。

聖ヨハネ学園の創始者、リーラ・ブルル女史は、丈夫な体ではなかったのに、米国での満たされた暮らしを離れ、42歳から36年間、神様への奉仕のために



リーラ・ブルル女史

人生の後半生を捧げました。働きを終え、帰国直前の1924(大正13)年3月20日に急性肺炎のため大阪で逝去しますが、財布には2円40銭しかなく、常時つぎはぎの服で質素清貧の生活に徹したことを多くが証言しています。「貧しい人は幸い、神の力がある」という御言葉通りを生きた女性が、ここにいます。

社会福祉法人 聖ヨハネ学園 (法人本部)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 TEL&FAX 072-687-0548

- 聖ヨハネ学園 (児童養護施設)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-0541 FAX 072-689-3623
- 下田部保育園 (保育所)  
〒569-0046 高槻市登町1番1号 ☎ 072-671-9960 FAX 072-673-8039
- ミス・ブルル記念ホーム (特別養護老人ホーム/デイサービスセンター/ケアプランセンター/ヘルパーステーション/地域包括支援センター/エンゼル園)  
〒569-1031 高槻市松が丘1丁目21番9号 ☎ 072-688-5138 FAX 072-688-4478
- ゆう・あいセンター (高槻市事業受託/地域活動支援事業Ⅱ型・特定指定相談支援事業)  
〒569-0075 高槻市城内町1番11号 ☎ 072-672-0267 FAX 072-661-3508
- うの花療育園 (高槻市指定管理者事業・児童発達支援センター)  
〒569-1131 高槻市郡家本町5番5号 ☎ 072-685-3803 FAX 072-685-3805
- 地域生活支援センター光 (障がい者支援施設/放課後等デイサービス)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-680-1110 FAX 072-691-8300
- 聖ヨハネ子どもセンター (高槻市乳幼児療育事業受託/児童発達支援/放課後等デイサービス事業/障がい児相談支援事業)  
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-7720 FAX 072-687-7722